



2021/6/10

NO. 94

# 科学の森ニュース

The University of Tokyo Forests News

発行：東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林

## Contents

- ・新林長挨拶…1
- ・記念植樹イベント…2
- ・林業科学技術振興賞を受賞…2
- ・バーチャル森林博物資料館…2
- ・新教育研究計画スタート…3
- ・四コマ漫画：オンライン会議あるある…3
- ・動植物紹介：クサギ…4
- ・川俣学生寄宿舎改修工事が完了…4

## 演習林長着任の挨拶

演習林長 久保田耕平

2021年度より3年間、演習林長を務めることになりました久保田です。私が最初に東大演習林に足を踏み入れたのは林学科に進学したばかりの学部3年の時でしたが、翌年の卒業論文研究でも、千葉演習林に何度かこもってオサムシのデータを集めました。つまり、私の研究生生活は演習林というフィールドから始まったということになります。以来40年近く、学生として、教員として、長らく演習林に様々な教育・研究の場を提供していただき、また多大なサポートをいただきましたが、今年からその運営に深く関わることとなり、身が引き締まる思いです。さて、森林を巡る世の中の関心は「森林の有する多面的機能」というキーワードから「持続可能な開発目標（SDGs）と森林との関わり」という視点に変わってきました。生物多様性の保全、自然環境の安定、持続的な木材生産等、SDGsに貢献できる森林科学の分野は実に多様です。東京大学の演習林の多様性は、研究フィールドとしてこれらの分野の進歩に必ずや貢献し続けることでしょう。また、今年には演習林教育研究計画2021-2030のスタートの年です。遠からず研究科の組織改革の議論も本格化することでしょう。継続と改革のバランスを取りつつ、よりよい演習林の実現に貢献していきたいと思っております。皆様よろしくお願いたします。



## ワールド・ウッド・デー 2021 記念植樹を開催

田無演習林

3月21日はワールド・ウッド・デー（世界木材の日）に定められています。ワールド・ウッド・デー2021の記念植樹イベントが、2021年3月19日に田無演習林にて国際木文化学会（IWCS）主催で行われました。新型コロナウイルスの影響で1年延期しての開催となりましたが、未だ収束には至らなかったため規模を縮小し、国内の参加者のみで実施しました。日本木文化学会（JWCS）のメンバーら11名が参加して、感染防止対策を徹底して行われました。植樹の前に尺八の演奏があり、厳かな音色により神秘的な雰囲気漂いました。植樹した樹種は、コナラ、クヌギ、クリ、ヒトツバタゴ、オオムラサキツツジ、イロハモミジの6本です。参加者は技術職員の指導のもと丁寧に苗木を植えていました。苗木がすくすく育つことを願うばかりです。



演習林ゆかりの山本博一名誉教授による苗木の植栽（IWCS提供）

## 大村和也さんが林業科学技術振興賞 （研究支援功労賞）を受賞

秩父演習林

秩父演習林の技術職員、大村和也さんが「東京大学秩父演習林における天然林大面積長期生態系プロットでの研究支援」という業績で、令和2年度の林業科学技術振興賞（研究支援功労賞）を受賞しました。この大面積プロットでは、1991年に梶幹男名誉教授が設定したイヌブナの試験地を拡大し、定期的な毎木調査とリタートラップ調査が技術職員が中心となって継承してきました。大村さんからは「自分一人の力で成し得たものでは

なく、技術職員みんなで継続してきた取り組みに対して頂いた賞だと感じている。このプロットには、たくさんの思い出があるので大変うれしい」と喜びのコメントが届きました。



秩父演習林の庁舎前で受賞の盾を手にする大村さん

## 360度写真で見る森林博物資料館

千葉演習林

千葉演習林の森林博物資料館では、動植物の標本や巨木の円板、林業の古い絵図や道具、房総地域の伝統工芸品など多数のコレクションを保管・展示し、千葉演習林を訪れた学生や地域の皆さまに公開しておりますが、このたび、より多くの方々に見てもらうべく、千葉演習林ホームページ上にバーチャル森林博物資料館を開設いたしました。360度カメラで撮影した館内をオンラインでご覧いただけます。千葉演習林創設127年の歴史の中で集めた貴重な資料をぜひご覧ください。（QRコードからご覧いただけます。）



バーチャル森林博物資料館で見るニホンジカはく製





# クローズアップ

## 附属演習林の教育研究計画 2021-2030 がスタートしました

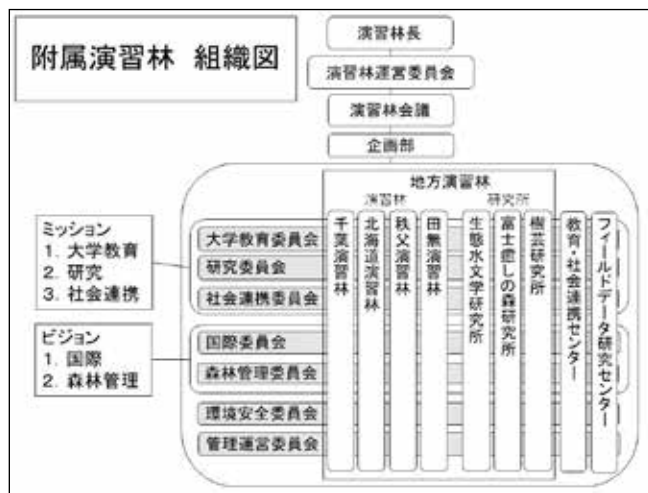
企画部

演習林は、大学設置基準に基づき、林学に関する学科の教育研究に必要な施設として設置されており、2011年に教育研究計画 2011-2020 を策定し、大学教育、研究、社会連携の3つのミッションを掲げて運営して参りました。その後10年が経過し、このたび新たに「教育研究計画 2021-2030」を策定しました。前計画の3つのミッションを踏襲しつつ、新たに国際、森林管理の2つのビジョンを掲げました。大学教育では、学部、大学院において、森林に関わる教育を行うとともに、そのための最適なフィールドを提供することを目指しています。研究では、森林を中心とした自然環境および森林と人との関わりについての専門的な研究を促進するとともに、大学を中心とした研究組織に最適なフィールドおよび森林を中心とした自然環境の動態に関する記録（データ）を提供することを目指しています。社会連携では、科学と社会をつなぐ森として、学校教育や生涯教育をはじめとする社会教育をより豊かなものにするための仕組みとフィールドを提供することを目指しています。常置する専門委員会はミッション及びビジョンに対応させる形で再編しました。また前計画で並列に置かれていた「7つの地方演習林及び弥生地区に置くセンター」と「常置する専門委員会」をそれぞれ「縦の組織」、「横の組織」と位置づけ、両者の関係を明確にしました。さらに、これま

で弥生地区に置かれていた「教育研究センター」を発展的に改組し、「教育・社会連携センター」と「フィールドデータ研究センター」を新たに設けました。新たな計画のもと、演習林の持つ価値を最大化し、社会に発信し、利用者の皆様へ最適なサービスを提供していく所存です。

### 演習林のおじと 008

作・絵 植村 敬典 Y



## クサギ

田無演習林

シソ科クサギ属 学名：*Clerodendrum trichotomum* Thunb.

子ども樹木博士認定会で子どもたちにクサギの葉の匂いをかいでもらうと、「くさい」「いいにおい」「ピーナッツバターみたい」など色々な反応があります。独特なおいから「臭木」という残念な名前が付けられてしまいましたが、多彩な色を持つ樹木です。夏に甘い香りのする可憐な白い花を咲かせ、秋に赤いがくに囲まれた紺色の果実をつけます。果実を集めて草木染めをすると、爽やかな美しい空色に染まります。果実は鳥が散布し、気が付くと日当たりの良い場所で大きくなっているので厄介者と思っておりましたが、草木染めの色を思うと大事にしたいくなります。



## 名所・名物案内

## 川俣学生寄宿舍

秩父演習林

川俣学生寄宿舍は1929年（昭和4年）に倉庫との兼用として木造で建設されました。本学における同年代の建築物としては、1925年築の大講堂（安田講堂）、1928年築の総合図書館、1926年築の農学部1号館などがあります。荒川源流近くの標高650m、平均斜度30度以上の急傾斜地に造成された狭隘な平地に立地しています。夏場は川からの風が心地よくエアコン要らずですが、紅葉が始まる頃から朝晩は冷え込み、正月から節分の厳寒期を経て新緑の季節まで暖房は欠かせません。

これまで、本学の森林関係の学生実習を始めとして学外者を含む多くの学生、教員、研究者に利用されてきましたが、令和元年東日本台風の豪雨により発生した土石流が押し寄せ、特に1階部分が大きな被害を受けました。今般、その復旧と補強を含む改修工事が完了し、利用者の受入れを再開しました。改修により1階の居室は洋室となり、食堂の隣にはミニ講義室も設けました。2階は従来どおりで現代にしては珍しい42畳の大広間ですが、コロナ禍が収束するまでは仕切りにより個室仕様となっています。感染症対策を万全にして、多くの学生、研究者の皆さんのご利用をお待ちしています。



往時と現在の外観と新設されたミニ講義室